

# 単元指導計画表～振り返り編～

小学校第4学年

折れ線グラフと表 【新編 新しい算数4上 p.6～18（東京書籍）】

全9時間

## 数学的な見方・考え方

**見方**・・・～に着目する  
**考え方**・・・～を論理的に考える ～を筋道立てて考える  
 ～を基に考える ～と関連付けて考える  
 ～と結び付けて考える ～の条件を変えて考える  
 ～の適用範囲を広げて考える

## 振り返りの視点



ア) 何が分かったか、何ができるようになったかについて  
 イ) 何に着目したか、どのように考えたかについて  
 ウ) 次の学習の見通しを持ったり、生活とのつながりを考えたりしたかについて

小単元	時	教科書のページ 本時のねらい	中心となる 数学的な見方・考え方 <small>※本来は一体として捉えるものですが見やすさを考慮し、分けて記載しています。</small>	視点 振り返りの	具体的な言葉掛け例 →期待される児童の反応例	方法 振り返りの
1	1	p. 6～8 折れ線グラフの仕組みや読み方を理解する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>折れ線グラフの縦軸や横軸、目盛りに着目する。</li> <li>棒グラフと折れ線グラフを関連付けて考える。</li> </ul>	イ イ ア	<ul style="list-style-type: none"> <li>折れ線グラフと棒グラフの似ているところはどこですか。 →似ているところは、縦軸と横軸があるところ。</li> <li>→どちらも目盛りが付いているところが似ている。</li> <li>違うところはどこですか。 →折れ線グラフは点でつないでいるところが棒グラフとは違う。</li> <li>折れ線グラフを使うときはどんなときですか。 →変わっていくもの様子を表すとき。</li> </ul>	口頭でのやり取り
				イ、ウ	<ul style="list-style-type: none"> <li>折れ線グラフで表すとよいものにはどんな事柄があるか書きましょう。 →毎年測っている身長。</li> <li>→体カテストの結果。</li> </ul>	学習感想
	2	p. 9 折れ線の傾きと事象の変化の度合いの関係を理解する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>折れ線の傾きに着目する。</li> <li>折れ線の傾きと変わり方の関係を結び付けて考える。</li> </ul>	イ	<ul style="list-style-type: none"> <li>棒グラフと比べて折れ線グラフのよいところは何かですか。 →折れ線グラフは変わり方の大きさが分かりやすい。</li> </ul>	口頭でのやり取り
	3	p. 10～11 折れ線グラフをかくことができる。  グラフの特徴や傾向を読み取ることができる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>横軸と縦軸に着目する。</li> <li>目盛りに着目する。</li> <li>2つの折れ線グラフの特徴や傾向を関連付けて考える。</li> </ul>	ア ウ	<ul style="list-style-type: none"> <li>折れ線グラフがかけられるようになったか他の都市（仙台など）の1年間の気温の変わり方を、折れ線グラフに表して確かめましょう。</li> <li>東京やシドニーのグラフと比べて気が付いたことを書きましょう。 →東京は山のような形で、シドニーは山が反対向きの形になっている。</li> <li>→10月は東京とシドニーの気温が同じ。</li> <li>→気温の差が大きいのは1月と2月。</li> </ul>	適用問題  学習感想
4	p. 12 波線の意味や、折れ線グラフの表し方や読み方の工夫を理解する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>普通のグラフと波線の入ったグラフの違いに着目する。</li> <li>波線の入ったグラフのよさを普通のグラフと関連付けて考える。</li> </ul>	ア	<ul style="list-style-type: none"> <li>波線を使うよさは何かですか。 →途中を省くと変わり方が分かりやすくなる。</li> <li>→1めもりの間隔が大きくなって見やすくなる。</li> </ul>	口頭でのやり取り	

5	p. 13 棒グラフと折れ線グラフを重ね合わせたグラフの読み方を理解する。  グラフの特徴や傾向を読み取ることができる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>棒グラフと折れ線グラフの読み方に着目する。</li> <li>棒グラフと折れ線グラフを重ね合わせたグラフから、特徴や傾向を関連付けて考える。</li> </ul>	イ	<ul style="list-style-type: none"> <li>棒グラフと折れ線グラフを重ね合わせたグラフを読むときにどこに気を付ければよいでしょう。</li> <li>→右側と左側の目盛りはどちらのグラフのものか。</li> <li>→棒グラフと折れ線グラフの関係。</li> </ul>	□頭でのやり取り
			ア	<ul style="list-style-type: none"> <li>棒グラフと折れ線グラフを重ね合わせたグラフを見て、気付いたことを書きましょう。</li> <li>→最高気温が高くなると救急車で運ばれる人数が増える。</li> </ul>	学習感想
2	p. 14~15 資料を2つの観点から分類整理する方法や、二次元表の表し方、特徴の調べ方を理解する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>けがの種類と場所の2つの観点到に着目する。</li> <li>二次元表へ整理する方法を一次元表を基に考える。</li> </ul>	イ	<ul style="list-style-type: none"> <li>今日の学習では、前に学習したことの何が使えましたか。</li> <li>→表にまとめる。</li> <li>→「正」を書いて人数を調べる。</li> </ul>	□頭でのやり取り
			イ	<ul style="list-style-type: none"> <li>前に学習した表と違うところは何か書きましょう。</li> <li>→注目するところが2つある。</li> <li>→どこでどんなけがが多いか2つのことが分かる。</li> </ul>	学習感想
	p. 15 前時の資料を、異なる観点から二次元表に表す活動を通して、二次元表の理解を深める。	<ul style="list-style-type: none"> <li>二次元表を作成するために2つの観点到に着目する。</li> <li>二次元表の観点的条件を変えて考える。</li> </ul>	イ	<ul style="list-style-type: none"> <li>表が作れるようになったか確かめるために、けが調べの記録から項目を2つ選んで表に整理しましょう。</li> </ul>	適用問題
ア, イ		<ul style="list-style-type: none"> <li>表からどのようなことが分かりましたか。</li> <li>→学年ごとにどんなけがが多いかが分かった。</li> <li>→どの時間にどんなけがに気を付ければよいか分かった。</li> </ul>	学習感想		
8	p. 16 2つの項目を持つ資料を、2つの観点から分類整理し表に表す方法や、その表の読み取り方を理解する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>表や二次元表の整理の仕方に着目する。</li> <li>二次元表にまとめる条件を変えて考える。</li> </ul>	ア, ウ	<ul style="list-style-type: none"> <li>表に表す方法が分かったか、資料を基に結果を二次元表に整理しましょう。</li> <li>完成した表の説明をしましょう。</li> </ul>	適用問題
3	p. 17~18 学習内容の定着を図るとともに、できたこと、つまづいた所を整理する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>折れ線グラフの読み取り方と表し方に着目する。</li> <li>二次元表の読み取り方に着目する。</li> <li>折れ線グラフや二次元表の適用範囲を広げて考える。</li> </ul>	ア, イ	<p>【導入での言葉掛け】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>折れ線グラフの学習の振り返りです。学習したことが身に付いたか「しあげ」の問題で確かめましょう。</li> </ul>	適用問題
			ア, ウ	<ul style="list-style-type: none"> <li>折れ線グラフの学習をして、できるようになったことやしてみたいことを書きましょう。</li> <li>→折れ線グラフがかけられるようになった。</li> <li>→自分で調べたことをグラフや表に表してみたい。</li> </ul>	学習感想

※「本時のねらい」について

現在、宮城県内の市町村立小・中学校では算数・数学科において東京書籍の教科書を採択しており、専門研究員所属校でも算数・数学科の年間指導計画は東京書籍の「指導計画作成資料」を参考に作成している。本資料「単元指導計画表～振り返り編～」中の「本時のねらい」は、専門研究員所属校の年間指導計画より記載したものである。